



学校だより アンケート特集号

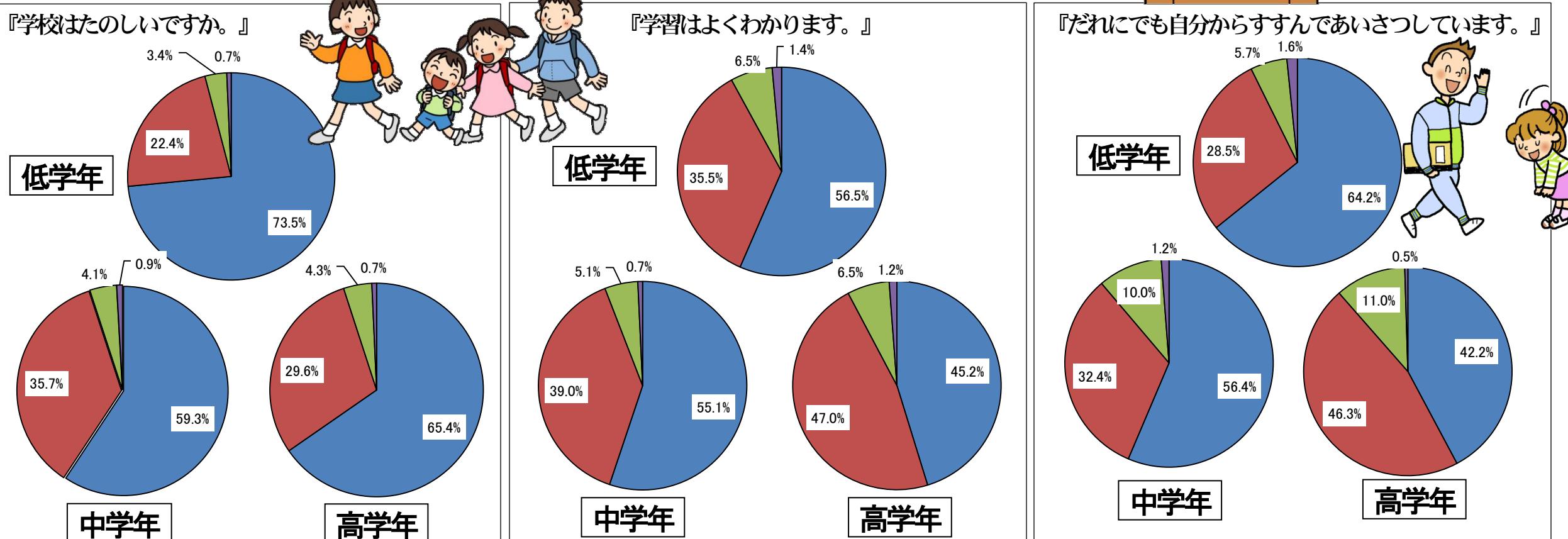
平成29年2月
京都市立桂東小学校
校長 和田英明

後期の児童アンケート結果です。結果の集計とそこからわかる傾向と今後の課題について、考察してみましたのでお知らせいたします。

今回は低学年・中学年・高学年と学年が進むにつれて各項目の割合はどう変わっていくかを調べました。



子どもたちのアンケート結果から（1）



“とても楽しい” “まあまあ楽しい”を合せると、低学年・中学年・高学年ともにほとんど差異はなく、いずれも95%ぐらいを推移しており、高学年も結構高い数字となっており、うれしく思っています。しかし、学年が上がるにつれて、“とても楽しい”的割合が減少してきています。学年が上がるにつれ、思春期に入っていく子どもも徐々に増えてきて、人間関係も複雑で難しくなっていきます。学習も難しくなっていきます。子どもたちにとっての学校の楽しさは友達関係や学習の理解度に負うところも大きいようです。個人差のある問題ですが、学校で気づくことがあれば、すぐに連絡させていただきます。ご家庭でもお子たちの様子で気になることがありましたら、すぐに担任にご連絡いただき、連携して対応していきたいと思います。

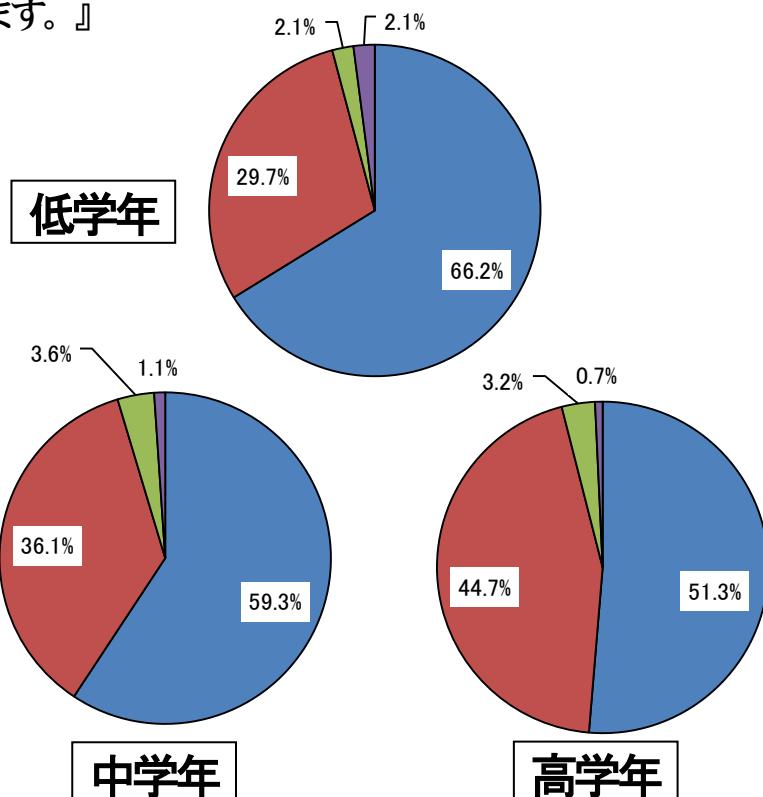
“よくわかります” “大体わかります”を合せると、中学年が94.1%で比較的高く、高学年が92.2%、低学年が92%とほとんど変わりませんが、低学年が一番低く、意外な結果と受け止めています。まず、基礎基本の習得に向け、「算数タイム」ではドリル的な学習に徹底的に取り組んでいます。1月上旬に行なったジョイントプログラムの結果はまだ出でていませんが、楽しみにしています。今回のアンケート結果では、“わからない”が低学年で1.4%，中学年で0.7%，高学年で1.2%となっています。今までからも「わからない子ども」の克服を目指し、普通授業の中で個の課題に対応する学習となるよう工夫して取り組んできましたが、今後、時間の許す限り、個の課題に対応する放課後の個別指導にもしっかりと取り組んでいきたいと思います。

中学年と高学年は、肯定的な回答が88.5%ぐらいで、否定的な回答は11%ほどで、ほぼ同じ傾向を示しています。比較的あいさつはできている方ではないかと思っています。低学年は肯定的な回答は90%を越えています。確かに、低学年の子どもたちも、校内で観ている限りではしっかりあいさつできています。ところが、普段の子どもたちの様子を見ていると、学校の中ではあいさつができるても、一歩、学校の外に出ると、見守り隊の皆様はじめ、地域の方々にあいさつができない子どもが目立ちます。「あいさつは人と人が心を通じ合い、和（やわ）らぎ合っていること」とも言います。あいさつの意味を考えさせることから始め、今後は、「どこでも、だれにでも、・・・」に力を入れて取り組んでいきたいと思います。

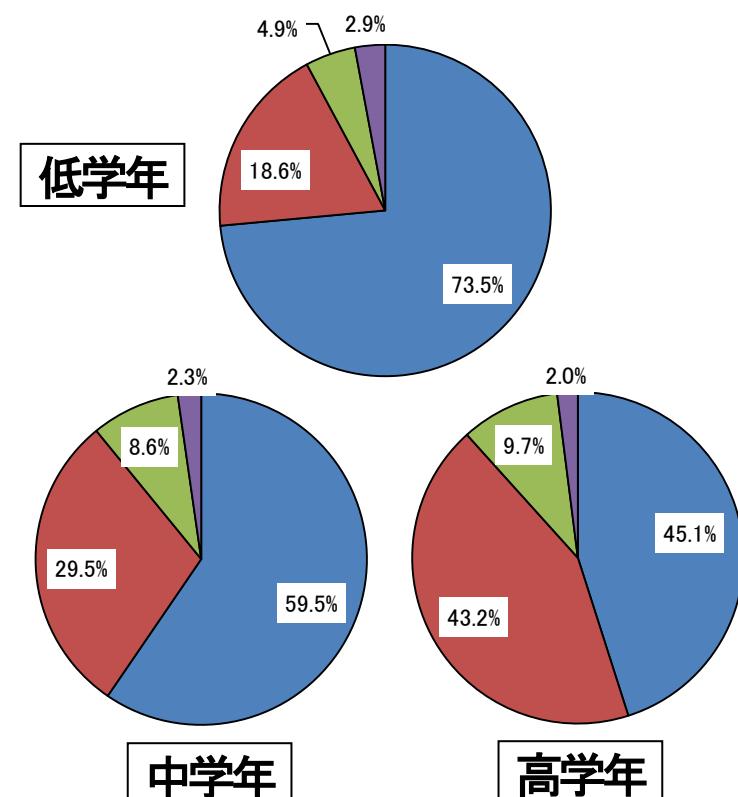


子どもたちのアンケート結果から（2）

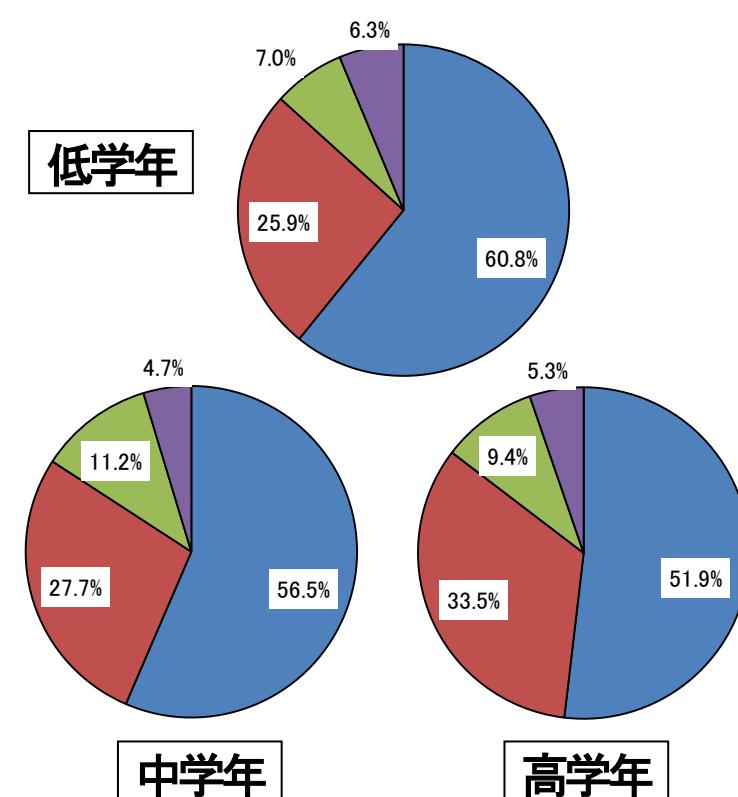
『学校のきまりや社会のルールをしっかり守っています。』



『「早寝、早起き、朝ごはん」がしっかり出来ています。』



『家で学校のことをよくお話しします。』



“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年95.9%、中学年95.4%、高学年96%とどの学年も高い比率となっており、学年の差異もほとんど見られません。“出来ていません”という否定的な回答では低学年が2.1%と他学年よりかなり高い比率であったことが想定外でした。

学校では、「あいさつ、ペル着、トイレのスリッパ」を合言葉ご行動することで、ルールの大切さを実感していく取り組みを行っておりまます。また、学習をはじめ、学校行事や清掃活動など、あらゆる教育活動の中で、みんなで何かをやり遂げる成就感・達成感を通して、規範意識が自然と身に付くように取り組んでいきたいと思います。

家庭での規則正しい睡眠や食事等の基本的な生活習慣、家庭の手伝い等の家庭教育の土台があつてはじめて、学校での取り組みも成果が出てきます。今後とも、ご理解・ご協力よろしくお願ひいたします。

“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年92.1%、中学年89%、高学年88.3%という結果になっています。低学年は早寝して、高学年ほど夜遅くなるのが一般的だと思いませんので、ある意味、想定内の結果となっております。

ただ、個々の事例を尋ねてみると、低学年でも10時頃就寝している子どももいるようです。これは、時間に対する意識のちがいがあるかも知れませんが、1年生で10時就寝というと遅い感じですが、6年生で10時就寝はセーフなのかもしれません。また、兄・姉がいる子どもは、上の子と同じ時間帯まで起きているのではないかでしょうか。それぞれご事情があり、どうしても小学生が大人と同じ時間帯で生活せざるを得ない場合もあると思います。しかし、小さい子にはそれなりの睡眠時間が必要です。成長期にある子どもの生活リズムをしっかりと作っていくよう、ご協力お願いいたします。

「よく出来ている」という回答は、低学年60.8%、中学年56.5%、高学年51.9%と高学年になるにつれて減少してきています。“出来ていません”という否定的な回答が、低学年6.3%と高学年の5.3%より高いのが想定外でした。学年が上がるにつれて自分から話かけようとしている子どもたちの比率が増えてくるものと思いますが、低学年すでに自分から話さうとしている子どもがいるのが、ある意味ショックでした。“だれにでも自分から進んであいさつしています”も“お友だちとかよく遊んでいます”も“出来ていません”という否定的な回答は、低学年が一番比率が高かったです。

「人と自分から関わろうとしない」という点では、いずれもリンクしているように思います。友だちと一緒に力を合わせて何かをやり上げる成就感を味わうという経験を積み重ねていけば、人と関わることの楽しさを実感して、自分から話さうとしていくのではないかとも思います。解決に向けてご家庭とともに考えていきたいと思います。